

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりを努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 本校の教育活動に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	① 基礎基本の充実と深い学び及び心身の健全育成のための諸施策を充実させる。	A	A	A	学校は、生徒や保護者が満足するような教育活動を進めていると回答した生徒が88%、保護者が86%である。	生徒と教職員の間のしっかりとした信頼関係を基礎に指導がなされている。学校評価アンケートの結果、授業参観の様子、いずれも以前と比べかなり良くなったという印象を受ける。SAHの様々な取組が生徒主体なのは大変良い。その成果が如実に感じられる。SAHの取組は、大人の目線だと失敗する。前橋南高校の生徒の特徴、課題として「のんびりした生徒」という話が出ているが、それは前橋南高校の生徒の良い所でもある。良い所を伸ばしつつ、今後も生徒の視点でSAHの取組を推進していくことを期待する。
		② 学校生活が充実していると感じている生徒が80%以上である。	② 授業や行事に生徒が主体的に参画できるような環境作りや工夫を進めるなど、支援体制の強化を図る。	A	A	A	学校生活が充実していると回答した生徒が91%、保護者が88%である。	
		③ 各教科の授業や「総合的な探究の時間」の探究的活動に意欲的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	③ 生徒が主体的に学習に取り組めるような授業の実践、エビデンスカードの活用と探究的学習の体系化・深化に努める。	A	A	A	各教科の学習や探究学習に意欲的に取り組んでいると回答した生徒が90%、保護者が77%である。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業毎のねらいを掴み、主体的・協働的な学びから、学習理解が深まったと考える生徒が80%以上である。	④⑤ 生徒の知的好奇心を刺激し、意欲的に学習する姿勢を確立することができるように、各教科における更なる授業改善を進める。また、ICTの活用と探究的学習の体系化・深化を推進していく。	A	A	A	授業毎のねらいを掴み、主体的・協働的な学びから、学習理解が深まったと回答した生徒が91%、保護者が70%である。	新学習指導要領の研究やICTの活用を更に推進しながら、主体的・対話的で深い学びに向けた不断の授業改善を全職員挙げて継続して取り組んでいる。観点別評価についても、教育課程委員会等を中心に教科間で情報共有しながら進める。各種補習等については、内容を更に充実させ、生徒の進路実現に繋がるような満足度の高いものとしていく。公開授業や授業参加についても充実させる。
		⑤ 授業に満足している生徒が80%以上である。	⑤ ねらいを明確にして教材を精選し、指導内容の充実を図る。	A	B	A	授業に満足している回答した生徒が86%、保護者71%である。	
		⑥ サタデープランや各種補習に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	⑥ 知識・技能の習得のため、各教科の課題に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	A	A	A	知識・技能の習得のため、各教科の課題にきちんと取り組んでいると回答した生徒が91%、保護者が88%である。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 生徒の1日平均の授業以外の学習時間が2時間以上である。	⑦ 生徒の授業以外の学習の実態を把握するため、定期的な学習量調査や個別面談を行うなど、家庭学習についてのアドバイスやサポートを充実させる。	C	B	C	1日平均の家庭学習時間(5・7・9・11月調査平均)は131分(1年113分、2年103分、3年176分)。予習や復習などの家庭学習に1日平均2時間以上取り組んでいると回答した生徒が79%、保護者が56%である。	課題の質と量について再度見直しを行い、より生徒が取り組み易く、進路実現に繋がるものとしていく。家庭学習は不十分な状態が続いている。担任を中心にHR指導や二者面談を通してその意義を再確認させるとともに、教科指導を更に充実させ学力向上、進路実現へ繋げる。生徒の学習の取り組みが、より自主的・主体的なものとなるよう、様々な仕掛けを検討していく。
		⑧ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑧ 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	A	A	A	知識・技能の習得のため、各教科の課題にきちんと取り組んでいると回答した生徒が91%、保護者が88%である。	
		⑨ 服装・頭髪規定やスマートフォン・SNSの利用ルール等を守ろうと心がけている生徒が80%以上である。	⑨ 生徒指導と進路指導は車の両輪であるという意識のもと、規律ある生活態度を基盤とする充実した学校生活が送れるように、指導体制・個別指導・保護者との連携を一層強める。	B	A	A	服装・頭髪規定やスマートフォン・SNSの利用ルール等を守っていると回答した生徒が90%、保護者が89%である。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ 交通ルール・マナーを守ろうと心掛けている生徒が80%以上である。	⑩ マナーアップ運動、交通安全教室を核に日常の様々な機会を捉えて、思いがけない事故が深刻な結果につながる可能性があるという認識と交通ルール・マナーの遵守意識を高める。	B	A	A	交通ルール・マナーを守っていると回答した生徒が87%、保護者が89%である。	指導に際しては、学年間や担当者間の足並みを揃えながらの組織的な取り組みを継続していく。次年度も規律ある学習環境を継続して整備していくとともに、特にスマホ・SNSのマナー向上を重点化する。生徒の交通ルール・マナーについては、まだまだ不十分な点が多い。HR担任や部活動顧問を中心に、こまめな声かけや指導を継続する。また、ヘルメットの着用指導についても家庭と連携しながら進める。部活動においては、生徒の主体性を育む指導を継続するとともに、事故等の予防に努める。
		⑪ 部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑪ 生徒の自主性を育てるとともに、達成感や自己肯定感を持たせられるよう顧問がきめ細かな指導を行う。	A	B	B	学校は、学校の活性化に向け、部活動を充実させていると回答した生徒が80%、保護者が68%である。	
		⑫ いじめを見逃さない環境作りが充実している生徒が80%以上である。	⑫ 個々の生徒の状況に対応した支援を行い、迅速な対応に努める。	A	B	A	学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っていると回答した生徒が78%、保護者66%である。	
V 開かれた学校づくりを努めていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑬ 一人ひとりの人権を尊重する環境作りが充実していると思っている生徒が80%以上である。	⑬ 人格の尊重、他人への思いやり など、豊かな人間性の育成を図る。	A	A	A	学校は、豊かな人間性の育成を目的とした人権教育に積極的に取り組んでいると回答した生徒が90%、保護者が72%である。	いじめ防止においては、生徒の状況把握と迅速な組織的対応を今後も継続する。人権教育においては、次年度に向けた指導計画を作成し、組織的な取り組みを継続する。
		⑭ 1年間皆勤の生徒が25%以上である。	⑭⑮ HR、集会等様々な機会に自己管理能力の大切さを生徒に理解させる。遅刻や欠席の多い生徒個々の理由を把握し、担任・学年団・生徒指導部が連携して個別指導に努める。	A	B	A	学校は、皆勤者を表彰し、皆勤の継続を奨励していると回答した生徒が85%、保護者が66%である。	
		⑮ 1日平均遅刻者数はクラスで1人以下である。	⑮ 12月末までの1日平均遅刻者はクラスで2.0%。学校は、遅刻や欠席の多い生徒への個別指導に努めていると回答した生徒が71%、保護者が49%である。	B	B	B	HRを中心に生徒の心身の健康管理に気を配り、安易に休まない指導を継続する。また、遅刻指導については、時間を守ることの大切さに日頃から触れるとともに、規律ある学校生活が送れるように、家庭とも連携しながら進める。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 「総合的な探究の時間」やLHR等の進路学習の計画が充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑯⑰ 進路指導部の方針をより明確化して計画性を高めるとともに、学年・教務部と連携して学校全体として生徒の進路意識を高揚させる。探究的な活動などをとおして自らの適性と能力に気付かせていく。	A	A	A	「総合的な探究の時間」やLHR等の進路学習の計画が充実していると回答した生徒が90%、保護者が69%だった。	非認知能力について、アメリカの60年前の実験では生涯賃金が差が認められるという研究結果がある。授業参観では、話し合い、学び合いの授業になっているのを実感でき、根付いてきているように感じる。自主性を育み、勉強は自分でやるものという雰囲気や更なる醸成していくことを期待する。SAH事業進捗管理については、よりシステムティックにできると良いと思われる。
		⑰ 1年生3学期の段階で、自己の適性を考えて文理選択をできた生徒が80%以上である。	⑰ 探究的学習への取り組みやエビデンスカードなどの記入をとおして自己認識を深めさせ、生徒が主体的に進路実現に取り組めるよう支援する。	A	A	A	生徒が自己のあり方や将来の職業について考えながら、進路実現に取り組んでいると回答した生徒が88%、保護者が74%である。	
		⑱ 「自己のあり方」と「将来の職業」との関連を考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて主体的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	⑱⑲ 生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。保護者への連絡を密にして必要事項の周知を図るとともに、本校の教育活動を伝えていく。	A	A	A	学校は、学年通信等を通して各学年に応じた適切な情報を発信していると回答した生徒が90%、保護者が86%である。	
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 定期的な学年通信等を発行し、80%以上の保護者に学年通信に目を通してもらう。	⑲⑲ 生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。保護者への連絡を密にして必要事項の周知を図るとともに、本校の教育活動を伝えていく。	A	A	A	学校は、学年通信等を通して各学年に応じた適切な情報を発信していると回答した生徒が90%、保護者が86%である。	学年、分掌等において、生徒・保護者向けの通信を発行するなど、今後も積極的な情報発信を推進する。また、一斉メール他、クラウドサービス等の有効な活用、Webページの更新等、継続して進めていく。
		⑳ 一斉メールやWebページの情報提供に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	⑳ デジタル機器を活用するための研修なども含めて、学校全体の効率化を目指し、デジタル環境を整備していく。	A	A	A	学校は、一斉メールやWebページを充実させ、家庭や地域に情報を発信している回答した生徒が89%、保護者が89%である。	
		㉑ 学習用端末やICT機器を活用した指導を行い、ICT機器を積極的に学習活動に利用していると答えた生徒が80%以上である。	㉑ 授業でのICT機器の効果的な活用を学校全体で推進する。また、学習用端末を利用した朝会連絡やリモート会議を積極的に取り入れる。	A	A	A	学校は、学習用端末やICT機器(プロジェクト等)を活用した指導を行っている回答した生徒が93%、保護者が72%である。	
VIII 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ 学校が積極的にICTを活用し、教育活動の効率化を図っていると答えた回答者が80%以上である。	㉒ デジタル機器を活用するための研修なども含めて、学校全体の効率化を目指し、デジタル環境を整備していく。	A	B	A	学校は、ICTを活用し、教育活動の効率化を図っていると回答した生徒が90%、保護者が70%である。	校内外研修を通して教職員のICTの活用を更に推進していく。また、ICT機器の整備を事務室と連携しながら進める。ICT機器やクラウドサービスの効果的な活用など、業務の効率化を推進する。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	A	B	A	学校は、ICTを活用し、教育活動の効率化を図っていると回答した生徒が90%、保護者が70%である。	